

令和6年度 鳥獣被害対策ニュース 第2号

令和6年9月6日



ニホンザル対策・多獣種に対応する複合柵

福島県県北農林事務所伊達農業普及所
(電話：024-575-3181)



管内では、近年ニホンザルの出没が頻発しています。サルは、群れで行動する習性があるので、群れが定着しないよう出没初期からの「追い払い」活動が有効です！
今後は、イノシシだけではなくサル等の被害にも注意する必要があります！

1 ニホンザルの対策

ニホンザルは群れで行動し、集落をエサ場として認識すると長年にわたって定着し、農業被害や人への威嚇などによる生活被害にもつながります。サルの群れは定着を未然防止できれば、被害の軽減につながります。まずは追い払いをしましょう！

①サルを見かけたら、必ず追い払いの活動を行う（花火や追いかけ等）

ポイント ・おじい、おばあや子供も追い払いを行う！（人はみんな怖い、とサルが学習する）

②しつこく追い払う（さらに「人は怖い」と思わせる）

ポイント ・山の中まで追うことで、恐怖心を感じさせることができる！

※できる範囲でやってみましょう！ 花火ではなくても追い払い効果はあります！



●すでにサルが地域に定着しているときは、侵入防止柵が必要です！

電気柵、複合柵（WM柵の上部に電気柵を設置する。市販品もある。）により侵入防止を徹底しましょう。また柵の外側近くに樹木があると、樹木の枝から飛び込まれるため、樹木を伐採するか、柵は樹木の枝から水平距離で3m以上離すようにしましょう。



2 多獣種に対応する複合柵

イノシシ、ニホンザルを同時に対応するためには、ワイヤーメッシュ柵の上部に電気柵を設置する複合柵が有効です（図2）。ワイヤーメッシュ柵は、高さ100～120cm×幅200cm（10cm目合い、一般的に市販されているもの）のワイヤーメッシュと、支柱として、各メッシュを重ね合わせる部分に太さ13mm×長さ130～150cm（ワイヤーメッシュの高さ+土への打ち込み30cm）の異形棒鋼を用いて設置します。電気柵は、ワ

ワイヤーメッシュの外側に電気柵支柱をバインド線に取り付け、電気柵のワイヤーをメッシュ柵の直上（ワイヤーメッシュ柵や支柱に漏電しないように）、20cm、40cmとなるよう設置します（図3）。

さらに、ツキノワグマやハクビシンなどの中型動物が加害している場合には、対応する電気ワイヤー、ネット等を組み合わせることが必要です。

<複合柵>

WM柵を登ったところで感電する！

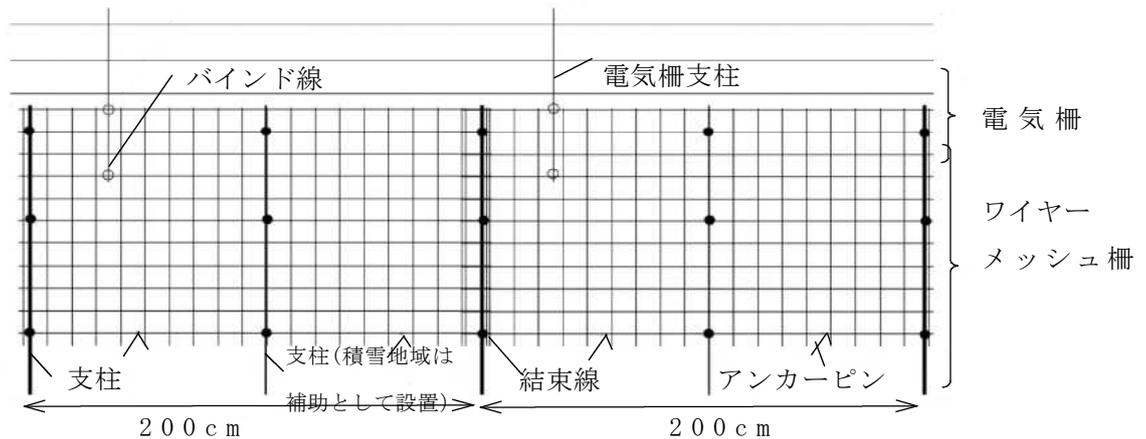


図2 複合柵の設置（ワイヤーメッシュ柵＋電気柵）

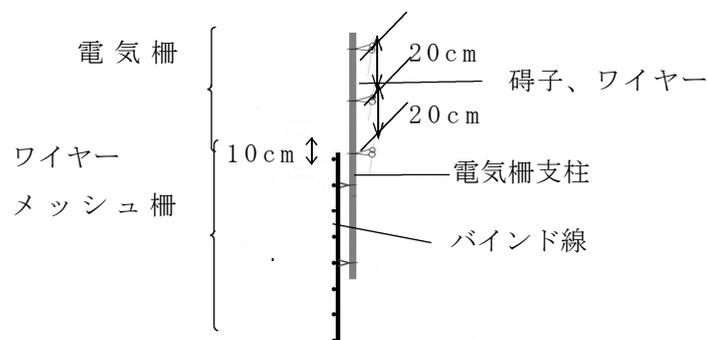


図3 ワイヤーメッシュ柵と電気柵の連結

<編集後記>

- 阿武隈山系でもツキノワグマの目撃が増えています。朝夕は、山際や川沿いでの農作業や散歩に注意してください。熊鈴などを活用して、鉢合わせしないように工夫することも大切です。
- イノシシについては、2～3年前から個体数の減少により農業被害も減少しましたが、最近ではイノシシ被害が増加している事態が県内各地で見られ始めています。秋の収穫期に向けて、侵入防止柵のチェックを行いましょう！
- 鳥獣対策は、一人一人の対策ではなかなか効果が上がらないことが多いので、集落の皆さんで連携して取り組みましょう！